

資料3-18 三重県における赤潮発生状況（平成23年1月～12月）

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の 有無(被害整 理番号)	情報源
1 (S-1)	3.3	志摩度会(五ヶ所湾)	<i>Akashiwo sanguinea</i>	3.3に五ヶ所湾の北東湾奥部(木谷および下津浦)で <i>Akashiwo sanguinea</i> による赤潮が確認された。最高密度は木谷0m層の1,950細胞/mlであった。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0~2m層	A. s. 1,950	無	三重県水産研究所・南伊勢町南勢種苗センター・養殖漁業者
2 (K-1)	4.19	熊野灘北部(賀田湾三木浦)	<i>Noctiluca scintillans</i>	4.19に賀田湾三木浦の港内で <i>Noctiluca scintillans</i> による海水の着色が確認された。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m	N.c. 不明	無	尾鷲水産研究室
3 (S-2)	6.3	志摩度会(五ヶ所湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	6.3に五ヶ所湾東部(スギノ浦)で、 <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は41,300細胞/mlであった。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m	H.a 41,300	無	三重県水産研究所、南伊勢町南勢種苗センター、養殖漁業者
4 (I-1)	6.6	伊勢湾北東部	<i>Heterosigma akashiwo</i> Small flagellates	美浜町野間沖から湾奥にかけて、 <i>Heterosigma akashiwo</i> と小型鞭毛藻類による赤潮が確認された。	204	0	H.a. 6,400 S.f. 7,650	無	愛知県水産試験場・へいわ
5 (I-2)	6.22	伊勢湾	<i>Noctiluca scintillans</i>	南知多町豊浜沖で <i>Noctiluca scintillans</i> によるパッチ状の赤潮が確認された。	不明	0	N.s. 不明	無	愛知県水産試験場・海幸丸
6 (I-3)	6.24	伊勢湾東部	<i>Skeletonema</i> spp.	美浜町野間沖から湾奥部にかけて、知多半島沿いに <i>Skeletonema</i> spp. による赤潮が確認された。	不明	不明0	S.spp. 不明	無	愛知県水産試験場・海幸丸
7 (K-2)	7.28	熊野灘北部(尾鷲湾)	<i>Chaetoceros</i> spp.	7.28に尾鷲港内で、 <i>Chaetoceros</i> spp.による赤潮が確認された。最高細胞数は44,160細胞/mlであった。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m	C.spp. 44,160	無	尾鷲水産研究室

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無 (被害整理番号)	情報源
8 (K-3)	8.11- 8.16	熊野灘北部 (引本湾、尾鷲湾)	<i>Leptocylindrus</i> spp.	8.11に引本湾および尾鷲湾の海水に着色が見られたため、海水を検鏡したところ <i>Leptocylindrus</i> spp.を主とする珪藻類が高密度に確認された。引本湾では8.16まで高密度な状態が継続した。最高細胞数は8,560細胞/ml(引本湾)であった。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0-5m	L.spp. 8,560	無	尾鷲水産研究室・尾鷲水産室
9 (K-4)	8.16- 8.18	熊野灘北部 (尾鷲湾)	<i>Heterosigma</i> <i>akashiwo</i>	8.16~8.18にかけて、尾鷲湾の古里~尾鷲港~大曾根周辺海域で <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が発生した。最高細胞数は5,680細胞/mlであった。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0-5m	H.a. 5,680	無	尾鷲水産研究室・尾鷲水産室
10 (K-5)	8.22	熊野灘北部 (尾鷲湾)	ユーグレナ藻綱の一種	8.22に尾鷲湾古里周辺海域で着色が見られたため、海水を検鏡したところ、 <i>Euglena</i> sp.が高密度に確認された。最高細胞数は6,813細胞/mlであった。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m	E.sp. 6,813	無	尾鷲水産研究室
11 (S-3)	8.23- 8.24	志摩度会(五ヶ所湾)	<i>Karenia</i> <i>papilionacea</i>	8.23~8.24にかけて、五ヶ所湾東部を中心に <i>Karenia papilionacea</i> による赤潮が発生した。最高細胞数は1,370細胞/mlであった。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	2-10m	K.p. 1,370	無	南伊勢町南勢種苗センター
12 (S-4)	8.26-9.6	志摩度会 (阿曽浦)	<i>Heterocapsa</i> <i>circularisquama</i>	8.26に湾の奥部(この浦)で、 <i>Heterocapsa circularisquama</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は8.29のこの浦(5m層)で3,565細胞/mlであった。その後は減少し、9.6以降は100細胞/ml未満となった。なお、 <i>Heterocapsa circularisquama</i> は100細胞/ml以上を赤潮として取り扱った。	不明	5m層以深 (中~底層)	H.c. 3,565	有①	南伊勢町南島種苗センター

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の 有無(被害整 理番号)	情報源
13 (S-5)	8.29 10.7	志摩度会(英 虞湾)	<i>Heterocapsa circularisquama</i>	8.29に英虞湾の湾奥部(又吉前)で <i>Heterocapsa circularisquama</i> による赤潮が 確認された。最高細胞数は、9.7の外海(2m層) で3,192細胞/mlで、その後は英虞湾の奥部を 中心に数百から数千細胞/mlで推移した。10月 7日には、各測点で100細胞/ml未満となり、 10月末には、全域でほぼ見られなくなった。な お、 <i>Heterocapsa circularisquama</i> は100細 胞/ml以上を赤潮として取り扱った。	不明	全層(表~ 底層)	H.c. 3,192	有②	三重県水産研究 所・調査船まつか ぜ ・真珠研究会
14 (K-6)	9.13	熊野灘北部 (尾鷲湾)	<i>Mesodinium rubrum</i>	9.13に尾鷲湾北部(須賀利)で <i>Mesodinium rubrum</i> による着色が確認された。最高細胞数 は漁協前の380細胞/mlであった。なお、この 赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0~2m層	M.r. 380	無	尾鷲水産研究室
15 (K-7)	9.26	熊野灘北部 (引本湾)	ユーグレナ藻綱の一 種	9.26に引本湾内で、ユーグレナ藻綱の一種によ る赤潮(緑色)が確認された。最高細胞数は 1,225細胞/mlであった。この赤潮による漁業 被害はなかった。	不明	0m層	E.sp 1,225	無	尾鷲水産研究室
16 (S-6)	10.11	志摩度会(的 矢湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	10.11に的矢湾の湾奥部(伊雑の浦)で、 <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が確認さ れた。最高細胞数は12,450細胞/mlであ った。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0m	H.a 12,450	無	三重県水産研究 所、養殖漁業者
17 (S-7)	10.14	志摩度会 (英虞湾)	<i>Prorocentrum dentatum</i>	10.14に英虞湾の湾奥部(立石浦) で <i>Prorocentrum dentatum</i> による赤潮が確 認された。最高細胞数は35,000細胞/mlで あった。この赤潮による漁業被害はなか った。	不明	0m	P.d 35,000	無	三重県水産研究 所、立神真珠組合

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無 (被害整理番号)	情報源
18 (S-8)	10.17	志摩度会(英 虞湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	10.17 に英虞湾の湾奥部(立石浦)で、 <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は 13,300 細胞/ml であった。この赤潮による漁業被害はなかった。	不明	0-2m	H.a 13,300	無	三重県水産研究所
19 (S-9)	11.2 - 11.4	志摩度会 (阿曾浦)	<i>Heterocapsa circularisquama</i>	11.2 に阿曾浦の奥部(この浦)で <i>Heterocapsa circularisquama</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は 11.2 のこの浦(3m 層)で 577 細胞/ml であった。この赤潮による漁業被害はなかった。なお、 <i>Heterocapsa circularisquama</i> は 100 細胞/ml 以上を赤潮として取り扱った。	不明	3~5m 層	H.c. 577	無	南伊勢町南島種 苗センター
20 (S-10)	11.21 - 12.7	志摩度会(英 虞湾)	<i>Karenia mikimotoi</i>	11.21 に英虞湾の湾奥部(塩屋)で、 <i>Karenia mikimotoi</i> による赤潮が確認され、12.7 まで赤潮状態が継続した。最高細胞数は 11.28 の塩屋(2m 層)で 1,170 細胞/ml であった。この赤潮による漁業被害はなかった。なお、 <i>Karenia mikimotoi</i> は 100 細胞/ml 以上を赤潮として取り扱った。	不明	全層(表~ 底層)	K.m. 1,170	無	三重県水産研究所、 養殖漁業者

【備考】 (1) *H.circularisquama* は 100cells/ml 以上を赤潮として取り扱った。

【注】 (1) 「整理番号」は、発生時期の順に一連番号を記載し、() 内には発生海域毎に一連番号を記載した。(I、S、K はそれぞれ伊勢湾、志摩度会、熊野灘北部の各海域を示す。)

(2) 2 あるいは 3 海域にまたがって発生した場合は、各海域のそれぞれに発生したものとして扱った。従って、例えば 2 つの海域にまたがって発生した場合は、1 つの発生に対して 2 つの整理番号を与え、発生件数は 2 件とカウントした。

(3) 「発生時期」は、発生が確認された日から消滅日までを記載することを基本としたが、同一海域で発生、消滅(一時的な細胞数の減少)を繰り返したものについては、最初の発生から最後の発生まで(完全な赤潮の終息まで)を 1 単位として記載した。